

ゼロカーボンスーパーシティ所沢 ・ GXイニシアティブプロジェクト

グリーンTRANSフォーメーション

概要 所沢市の広域中心拠点である所沢駅周辺の市街地開発事業やIC周辺の産業拠点整備の推進に伴い、みどり豊かな低炭素防災都市構造への変革や各拠点間の公共交通ネットワークの強化など人中心のスマートな都市の形成を目指す。

- 課題**
- ・高齢社会への対応、子育て環境の向上
 - ・交通弱者対策、交通結節点と各地域拠点を結ぶ都市交通の確保
 - ・大災害への備え

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	駅等を中心とした都市機能の集約	短期	<ul style="list-style-type: none"> ・駅・IC周辺の区画整理や再開発事業の推進 ・複合施設(商業・住居・産業)の立地 ・緑豊かな生活環境の向上 (緑地創出・ミティゲーション・都市公園) ・出歩き・集うウォーカブルの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺の整備 ・産業団地の整備 ・緑の創出
スマート	都市内の交通・移動・交流環境の向上、弱者対策	長期	<ul style="list-style-type: none"> ・エコな公共交通の充実(EV、MaaS、自動運転等) ・エコモビリティ(EVシェアリング等)の促進 ・大規模商業施設内でのデジタルコンテンツの充実 ・高齢者や迷子の見守り(ところんおかえりQR促進) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通 ・シェアリング ・見守アプリの普及促進
レジリエント	災害時エネルギーレジリエントの強化	中期	<ul style="list-style-type: none"> ・ZEH、ZEH-M、ZEB(産業拠点整備を含む) ・再生可能エネルギーの創出・災害時の電力融通 ・デジタルサイネージを活用した防災等の情報発信 (平時:駐車場空状況、バスロケ、災害時:防災情報) ・主要道路の無電柱化による防災都市構造構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロエネルギーの土地利用

所沢市都市構造図

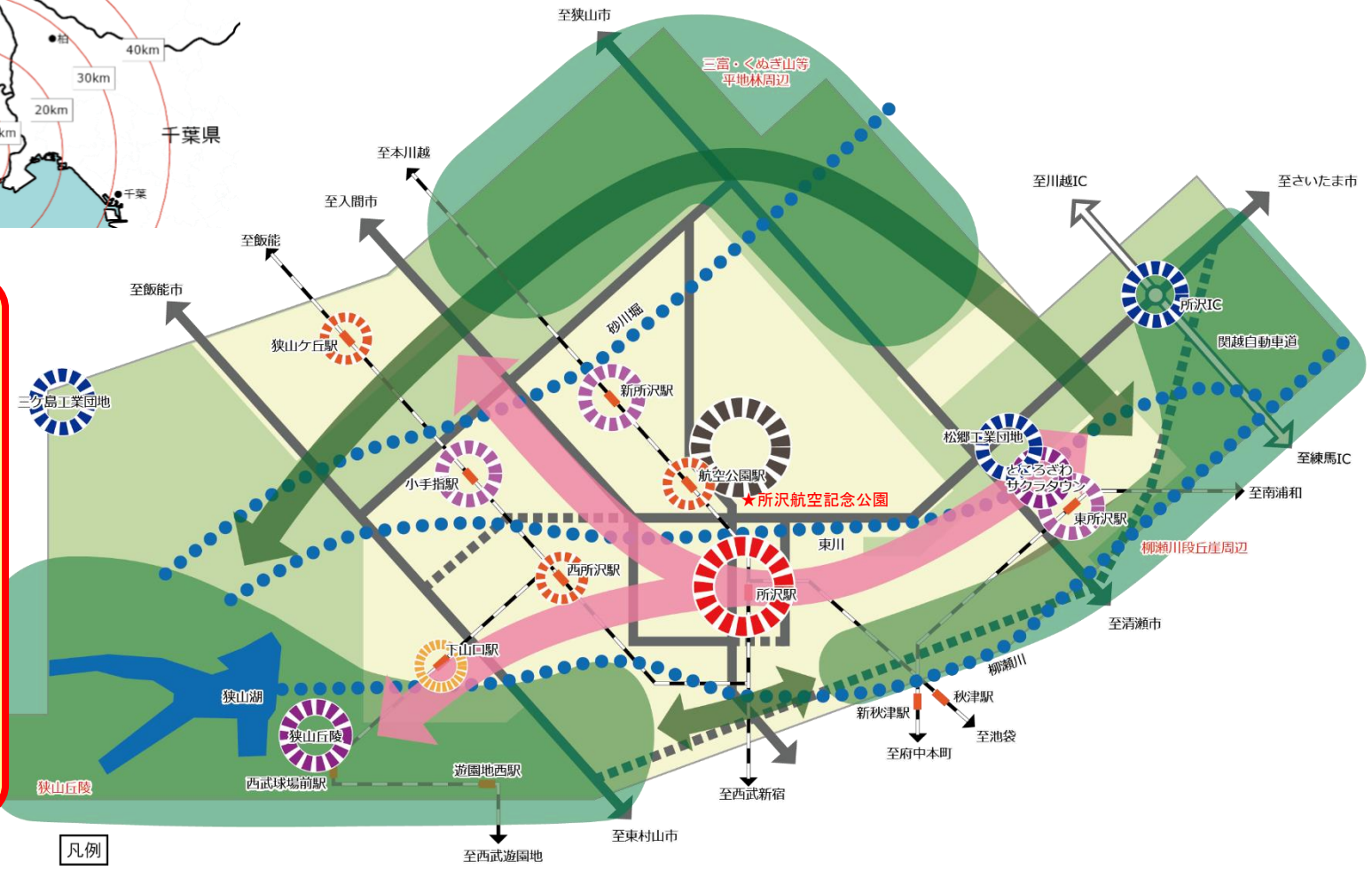
○駅・人を中心としたみどり豊かでスマートな住環境の形成
 ○IC周辺の立地を活かした先進的な製造主体の産業拠点の形成



**グリーンフィールド
 (新規開発エリア)**

所沢駅周辺の住居系

IC周辺の産業拠点



- 凡例**
- | | | | | | |
|--------|------|------------|-------------|-----------|-----------|
| 広域中心拠点 | 行政拠点 | 【軸】 | 都市活動軸 | 広域幹線道路・IC | |
| 広域生活拠点 | 交流拠点 | | 広域連携軸 | | 主要幹線道路 |
| 地域生活拠点 | 産業拠点 | | 主要幹線道路 (構想) | | 鉄道・駅 |
| 日常生活拠点 | | | みどりの軸 | | みどりの核 |
| | | | | | ネットワークとなる |

所沢駅周辺の市街地開発事業の取組 ～大規模PJ・エコ・緑のネットワーク化～

ファルマン通り交差点改良事業



所沢東町地区第一種市街地再開発事業(組合)



敷地 約 2,348㎡
建物 約 1,248㎡
延床 約21,316㎡
高さ 約100m
用途 商業、業務、
共同住宅、
駐車場等

出歩く環境整備(無電柱化・ウォークアブル・EVシェア)



上安松・下安松地区土地利用

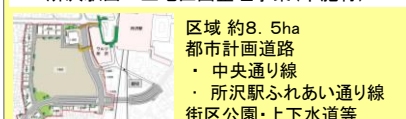
都市緑地・街区公園
上下水道等
【検討】
ゼロカーボンシティ
保育園と街区公園の
連携、緑化推進など



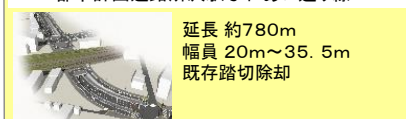
所沢駅西口北街区第一種市街地再開発事業(組合)



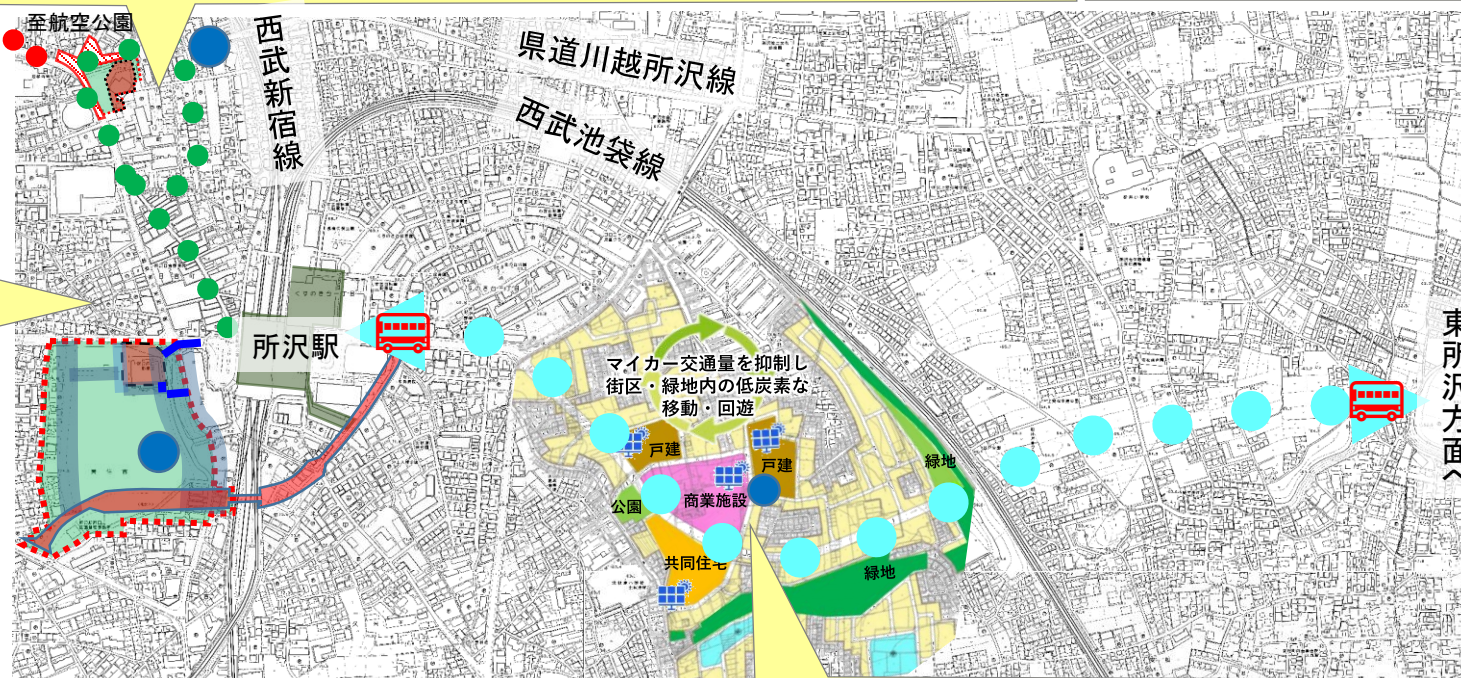
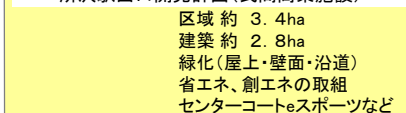
所沢駅西口土地区画整理事業(市施行)



都市計画道路所沢駅ふれあい通り線



所沢駅西口開発計画(民間商業施設)



北秋津・上安松土地区画整理事業(組合)

〔ゼロエネルギー・レジリエント〕

区域 約27ha
・街区道路
・都市緑地
・街区公園
・上下水道
等



公共交通・都市移動のスマート化



3駅から始まる本庄版スーパー・シティプロジェクト

概要	市内にある3駅(本庄駅・本庄早稲田駅・児玉駅)を中心としたエリアを拠点として捉え、「コンパクト」・「スマート」・「レジリエント」によるまちづくりの実現に向けた取組みを進めるとともに、それら拠点を結ぶ幹線道路や公共交通機関のスムーズな接続により、その効果を市全域へ波及していくことを目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化、高齢化を伴う人口減少の進行 ・中心市街地の空洞化等を伴うまちなかの再生 ・市民生活に甚大な影響をもたらす災害への備え

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	訪れたいくなる、住み続けたいくなるまちづくり	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・駅を拠点とした周辺整備と地域の観光資源を活用した居心地の良いウォーカブルなまちづくり ・本庄児玉ICや国道17号本庄道路等の産業拠点やポテンシャルを活かした持続可能なまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、福祉、子育て、商業など各種機能や宅地開発の民間誘導 ・空き家、空き店舗、空き地や無人駅の利活用 ・JRとの八高線活性化に向けた連携
スマート	スマート技術が人々の暮らしを支えるまちづくり	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートを必要とする子育て世代や高齢世代などを支えるスマート技術や、人々の豊かで、スムーズな暮らしを支えるアプリの導入により、誰にとっても暮らしやすいまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティサービスの開発 ・アプリの導入(ウォーカブル、AIオンデマンド交通システム)
レジリエント	いつもと変わらない生活を守るまちづくり	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーを活用した、ゼロカーボンシティの推進による、災害時でも途絶えることのない電源の確保を実現するまちづくり ・幹線道路の強化により、拠点をつないだ災害に強いまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーによる住宅モデルエリアの開発 ・蓄電池や太陽光発電などを活用したエネルギーステーションの設置

3 駅から始まる本庄版スーパー・シティプロジェクト

コンパクト

訪れたいくなる、住み続けたいくなるまちづくり



駅を拠点としたウォークブル



中山道の美装化



産業拠点を活かす



スマート

スマート技術が人々の暮らしを支えるまちづくり



暮らしを支えるアプリ



モビリティサービス

レジリエント

いつもと変わらない生活を守るまちづくり



再生可能エネルギーによる暮らし



エネルギーステーション



幹線道路の強化

春日部市版スーパー・シティプロジェクト ～既成市街地の再生と新市街地の創出～

概要 東武スカイツリーライン春日部駅周辺における既成市街地の再開発及び北春日部駅周辺における新たな宅地開発により、都市機能の集積を図るとともに、先端技術を積極的に活用することにより、持続可能で災害に強く、豊かな暮らしを実現することができ、様々な世代から選ばれるまちづくりを推進する。

- 課題**
- ・SDGsの実現に向けた持続可能なまちづくり(コンパクトシティの実現)
 - ・超少子高齢社会を支える最先端スマート技術の積極的な活用
 - ・大規模地震や豪雨災害等への確実な対応

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	都市機能の集積、地域コミュニティ・賑わいの創出	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートワークスペース、子育て施設、高齢者支援施設や行政サービス機能の設置 ・公園・広場、調整池などオープンスペースを活用した賑わい創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートワーク ・スマート子育て・介護 ・エリアマネジメント
スマート	ICTを徹底活用した持続可能で豊かな暮らしの実現	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・どこでも5Gサービスを受けられる通信環境整備 ・高い防犯性能を有する住宅 ・スマート街灯による見守りサービス ・再配達のない確実で安心な宅配サービス ・無人運転にも対応できる道路づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・5G通信施設整備 ・タウンセキュリティ ・スマート街灯 ・無人宅配ロボット、ドローン配送等 ・見守り通知サービス ・インクルーシブナビ ・ビーコン内蔵点字ブロック
レジリエント	予期せぬ災害にも確実に対応できるまちづくり	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性に優れたインフラの整備 ・太陽光発電および蓄電池設置による災害時における確実な電源確保 ・災害時の一時避難場所の確保や避難誘導 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー ・大容量電池システム

春日部市版スーパー・シティプロジェクト ～既成市街地の再生と新市街地の創出～ (イメージ図)

商業ゾーン

日々と、
笑顔と、
にぎわいと
こは、毎日がスマイルであられるまち



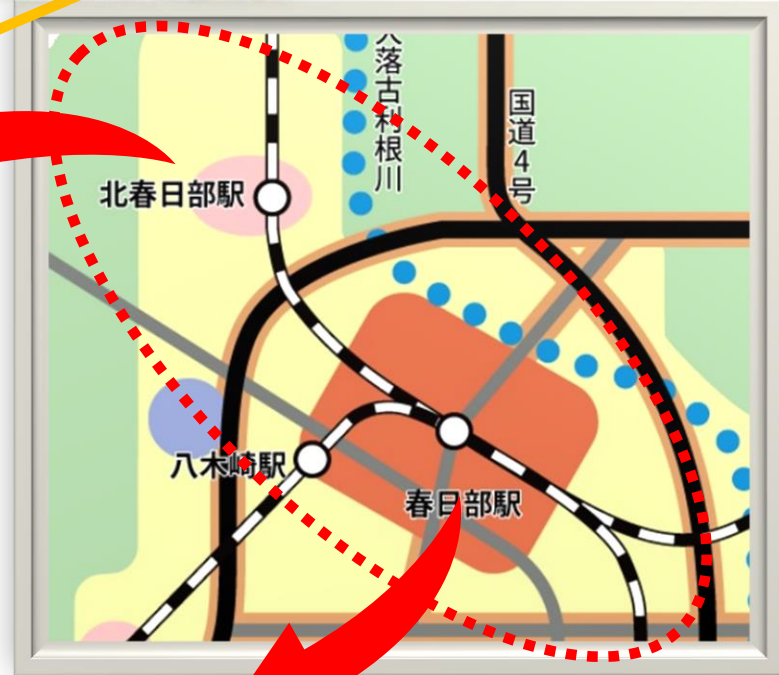
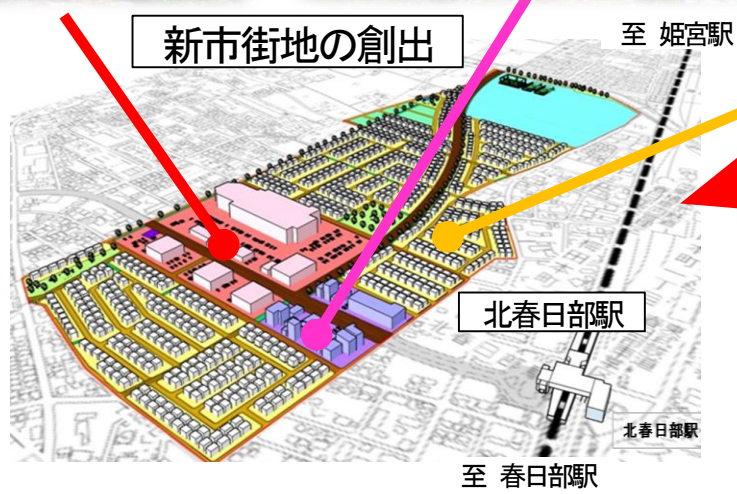
暮らしの質向上ゾーン

緑と、
にぎわいと
こは、スマートに暮らしを運ぶまち

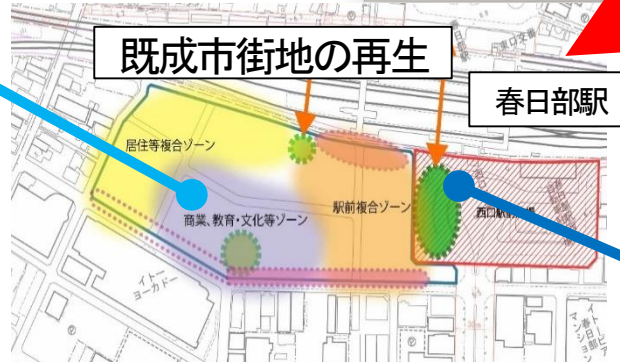


住宅ゾーン

緑と、
ゆらぎと、
ゆらなみと
こは、笑顔との大切なシーンをつくるまち



広場を活用した賑わい創出



駅前広場と連携した都市開発



みんな輝く未来共創のまち とだ スーパーシティ構想

概要	面積が小さくコンパクトな本市の特徴を生かしつつ、健康寿命の低迷や高齢社会への対応など市の課題に対応するため、歩きやすく、さまざまなニーズが完結する、全世代が住みやすいまちを構築する。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命の低迷の克服や高齢社会への対応に向けて、歩きたくなるまちづくりの推進やICT等を活用した取組を進める必要がある。 異常気象による自然災害などに官民が連携して対策を行う必要がある。 			
	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	駅を中心としたウォーカブルなまちづくり	長期 (10年)	高齢者から子供まで、幅広い世代が居心地がよく歩きたくなるよう、道路等パブリック空間をウォーカブルな人中心の空間に転換し、官民連携によるまちなかの賑わいの場の創出を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ調査 先進的な事例
スマート	ICT等を活用した官民連携による市民のQOL等の向上	短中期 (3~5年)	ICT等を活用した官民連携によるシェアモビリティや医療MaaSの実証実験等を通じ、市民のQOL等を向上させる。3D都市モデルを構築し、各種まちづくり等に関する計画検討のプラットフォームとして活用する。	<ul style="list-style-type: none"> システム構築 シェアサイクル EVシェア
レジリエント	災害時でも市内の活動が途絶えない仕組みの構築	中期 (5年)	災害時に活用できる電源施設の導入や防災ポータルサイト等の構築、防災活動への地域住民の参加を促すことにより、地域の防災力を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ調査 蓄電池 太陽光発電 バッテリーの電源化

戸田市取組イメージ図



【エリア全体】

- ICT等を活用した官民連携によるシェアモビリティの実証実験
- 太陽光発電及び蓄電池の導入
- 災害時に活用できる電源施設の導入
- 防災ポータルサイト等の構築

シェアサイクルポート

発電する
貯める
使う

【蓄電池イメージ】

【市内3駅周辺】

- 官民連携によるまちなかの賑わいの場を創出

まちなかの賑わいの場

居心地が良く歩きたくなるまち

まちなかの賑わいの場

まちなかの賑わいの場

身近な公園・広場

オープンスペース化

【美笹地区】

- 官民連携による医療MaaSの実証実験

【医療MaaS車両】

【医療MaaS車内】

朝霞市版スーパー・シティプロジェクト ～人と緑が生きるウォーカブルなまちづくり～

概要 官民連携による公園や街路空間等の利活用や、自然が持つ機能の最大限の発揮を軸に、『居心地が良く、歩きたくなるまち』と、『魅力的な商業エリア』の創出を図る。そのため、①道路空間の再構築や低未利用地の活用を通じた、人中心のウォーカブルな空間の創出、②地域のシンボルとなる豊かな自然の機能を活かした、グリーンインフラの整備、③災害時にも機能するフェーズフリーなまちづくり に取り組む。

課題

- ・歩行空間が不足する駅前通り等について、歩行者中心の道路空間へと再編し、安全で快適に歩ける道へ転換する必要。
- ・シンボルロードや黒目川など地域のシンボルとなる緑の拠点の魅力向上や、グリーンインフラの考え方を取り入れた公共空間の整備を行うとともに、駅周辺からの回遊性の向上が必要。
- ・災害時に活用可能なエネルギーの確保や、防災情報の効果的な発信を通じた、災害にも強いまちづくりが必要。

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	・ウォーカブルなまちづくり	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路空間の再配分による歩行者中心の道路空間整備 ・緑の拠点であるシンボルロードのほこみち指定に基づく賑わい向上や、黒目川の魅力発信 ・公共空間を活用した多様なイベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン30プラス等交通安全対策の実施 ・歩行者利便増進道路指定に基づく休憩施設や利便施設の設置 ・公共空間を活用したイベントの開催 ・商店街の活性化支援
スマート	・ICT技術を活用した情報伝達や移動手段の充実	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルサイネージ等を活用した地域イベント情報や災害情報の発信 ・ビッグデータやデバイスを活用した交通安全対策と回遊促進 ・シェアサイクルサービスの高度化 ・都市計画情報等、まちづくりにかかるデータのオープン化 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害情報のデジタル化 ・デジタルサイネージの導入・運用 ・ビッグデータの取得・活用 ・シェアサイクルサービスの高度化 ・GISの導入・活用
レジリエント	・災害にも強いフェーズフリーなまちづくり	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラの機能を取り入れたインフラ整備 ・再生可能エネルギーを活用した災害時の電源確保 ・主要道における無電柱化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラの導入にかかる技術支援(雨水貯留・流出抑制施設等) ・災害時にも活用可能な電源供給施設の設置 ・簡易な無電柱化に係る技術支援

桶川版スーパーシティ：コンパクト・プラス・ネットワーク

概要 本市は、駅を中心に同心円状に都市化した歴史をもち、人口減少、少子高齢化など社会環境の変化に起因する課題も地区によって差異がみられる。「社会環境の変化に順応した持続可能なまちづくりの推進」を図るため、地区特性に応じ、都市・生活機能等を集積する拠点をバランスよく配置し、各拠点を公共交通で連結するコンパクト・プラス・ネットワークの形成を図る。

課題

- ◆ 中心市街地の「賑わい」の創出と、人口減少・少子高齢化を見据えた「地域づくり」
- ◆ 「強さ」と「しなやかさ」を備えた強靱なまちづくり
- ◆ コロナ禍など社会環境の「変化を力」に変えるまちづくり

	コンセプト（目的）	目標時期	検討したい取組（施策）	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	地区特性に応じ拠点を配置し、賑わいや地域力の維持向上を図る	中～長期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 民間活力を導入した公民連携による拠点施設の立地など、民間企業のノウハウを活用した中心市街地の賑わいづくりや地域力の向上 ◆ ポスト・コロナ時代を見据えた市場変化に順応した拠点形成と地域経済の活性化 	◆ 先進事例、市場動向や民間活力導入可能性の検討
スマート	拠点施設への未来技術の実装	中～長期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 拠点施設へのデジタル技術実装による利用者への質の高いサービスの提供や管理運営の省力化、コスト縮減（公共施設の利用予約や決済へのデジタル技術の導入等） ◆ ICT技術の活用による地域の付加価値の向上と地域課題の解決（道の駅における人に頼らない観光案内等） 	◆ デジタル技術の実装事例とその効果
レジリエント	大規模自然災害発生時における強靱化	中～長期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 拠点施設への再生可能エネルギーや蓄電池の導入などによる地域防災力の向上 ◆ 圏央道桶川北本ICのポテンシャルを活かした企業との連携及び道の駅「（仮称）おけがわ」の整備による地域力と防災力の向上 	◆ 再エネ技術の最新動向

北本市版スーパー・シティプロジェクト

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な地盤の大宮台地に、防災機能を持つ住宅とともに、雑木林や谷津等の豊富な自然環境を生かしたグリーンインフラストラクチャーの整備等を推進し、地域の防災機能を強化する。 ・市街地の雑木林、空き店舗や空き家等の都市ストック、(仮称)市民活動交流センター等を活用して、住民が集い、つながれる文化水準の高いコミュニティスペースの整備等を推進し、住民の日常生活を豊かにする。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化、高齢化等を要因として住民同士のつながりが希薄化する地域で、支え合いや自発的な交流活動を活性化させるとともに、その担い手を育成する必要がある。 ・子育て世帯や高齢者等が安心して住み続けられるまちづくりを実現するため、交通の利便性向上策や安全対策のほか、住宅政策等を充実させる必要がある。 ・自然災害に強い地盤を持つ特徴をさらに生かすため、自然災害の発生時にも生活を維持することができるようハード・ソフトの両面を充実させる必要がある。

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	つどう、つながる人の発意で成長する コミュニティスペースづくり	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・旧栄小学校校舎を活用した(仮称)市民活動交流センターの整備 ・北本団地活性化プロジェクト等の推進 ・地域資源である雑木林等を活用したコミュニティスペース等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市ストックの活用 ・学習、交流メニューの提供
スマート	デジタル技術を活用した “住み続けたいまち”づくり	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段等の充実 ・交通安全対策の充実 ・防災機能を持つ災害に強いスマートタウンの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段等の充実 ・交通安全対策の充実 ・環境負荷低減の取組の充実 ・防災機能を持つ住宅の整備
レジリエント	“みどり”とともにある レジリエントな地域づくり	長期 (10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源である雑木林等を活用したグリーンインフラストラクチャーの整備 ・太陽光パネルをはじめとした再生エネルギーの活用等による災害時でも途絶えない電源の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑木林等の育成 ・再生可能エネルギーの活用等

北本市版スーパー・シティプロジェクト

この取組を通して実現すること【第五次北本市総合振興計画】

① 「“みどり” 豊かで

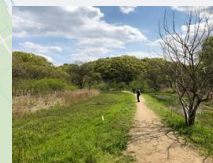
災害に強いまち」のロールモデルに！

② 人の近接によりまちの活力を生み出すこと

③ 暮らしやすさを追求した生活基盤の充実

“みどり”とともにあるレジリエントな地域づくり

- ・公園緑地の防災機能の強化や、街路樹の緑化等の推進
- ・災害時に活用できるPHV車の導入



つどう、つながる人の発意で成長する コミュニティスペースづくり

- ・栄小学校の跡地へ地域住民が集う交流拠点の整備
- ・市街地の雑木林等を活用した地域住民の交流できるコミュニティスペースの整備



デジタル技術を活用した “住み続けたいまち”づくり

- ・AIを活用した交通安全対策の充実
- ・防災機能を持つスマートタウンの整備

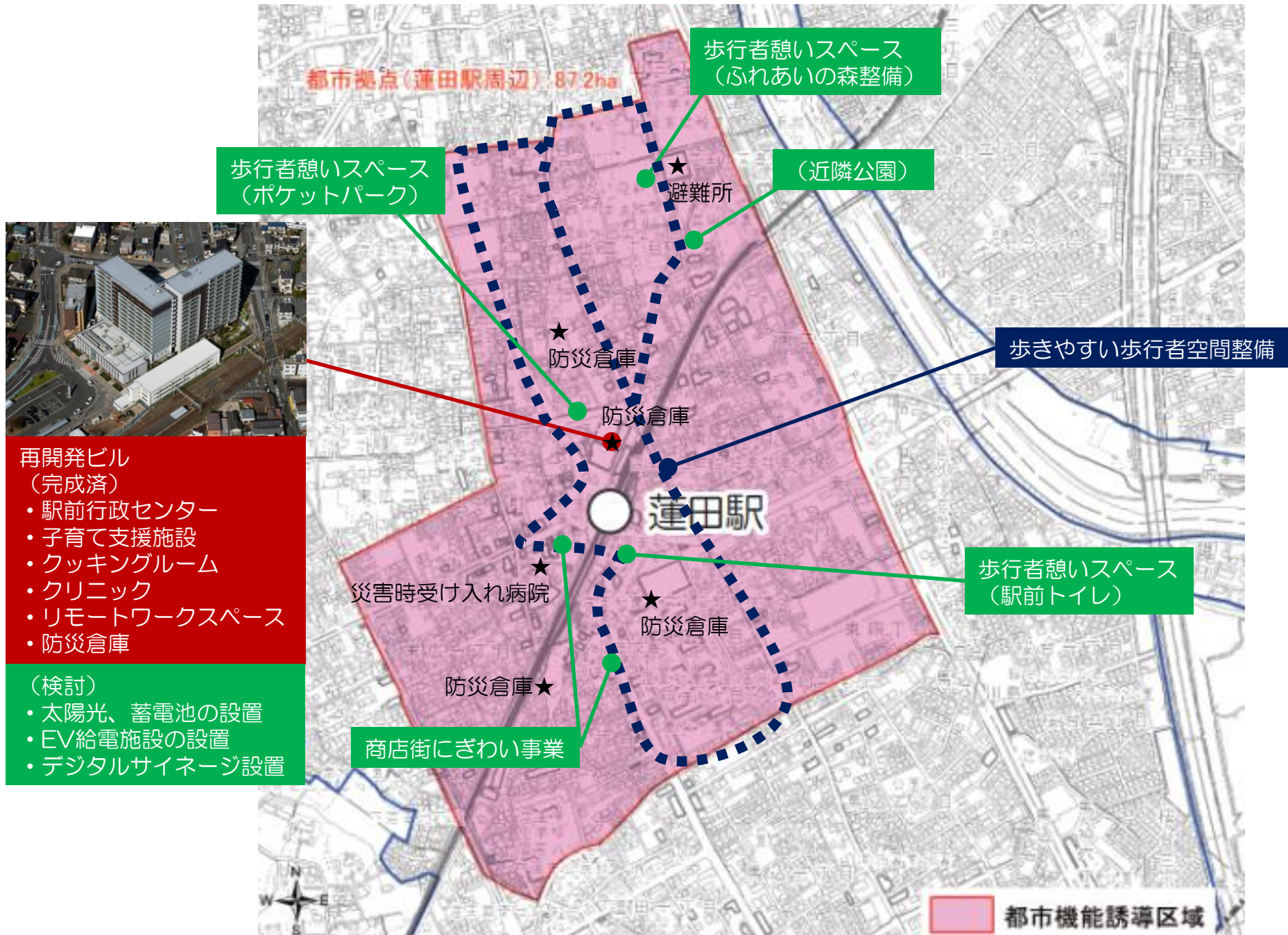
蓮田市版スーパー・シティプロジェクト(中心市街地のウォーカブルまちづくり)

概要
 再開発事業による複合拠点を核とし、歩行者空間および憩いスペースをネットワーク化することにより回遊性を高める。併せて、地元商店街との連携により賑わいを創出することにより、出歩きたくなるまちなかづくりを進める。また、防災倉庫の拡充や地元商店街との連携により、災害時に備えたまちづくりを進める。

- 課題**
- ・地域コミュニティの希薄化を見据えた官民連携による持続的な賑わいづくり
 - ・中心市街地の活力の低下を見据えた最先端スマート技術の導入
 - ・災害に強い市街地を形成するための大規模災害時へのリスク対応

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	・歩いて暮らせる 中心市街地の構築	長期 (10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地が良く歩きたくなる歩行者空間・憩いスペースの創出 ・道路空間を利用した賑わい創出、エリアマネジメント ・歩行者優先の交通規制 ・公共交通のさらなる利便性の向上(新たな輸送サービスを含む) ・まちの情報発信(案内看板等) ・生活拠点施設の再編・集約 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーカブルなまちづくり ・商店街活性化 ・エリアマネジメント ・ゾーン30 ・地域交通の拡充
スマート	・スマート技術を活用した 移動、輸送の質向上	長期 (10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・街なかの回遊性向上を図る地域アプリの展開 ・デジタルサイネージによる地域情報、災害情報の伝達 ・ドローンによる災害物資の輸送 ・3D都市モデル整備による災害リスクの可視化、防災教育への活用 ・自動運転技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに活用できるスマート技術全般
レジリエント	・災害に強い 中心市街地の構築	長期 (10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・EV、太陽光エネルギーからの災害時の電源確保 ・災害時における生活物資の確保 ・幹線道路の無電柱化、道路啓開用のスペース確保 ・防災施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間連携によるEVからの給電、太陽光発電及び蓄電池の設置 ・自主防災組織、自治会、商店街との連携 ・無電柱化に係る低コスト手法

蓮田市版スーパー・シティプロジェクト（中心市街地のウォークブルまちづくり）イメージ図



鶴ヶ島版スーパーシティプロジェクト ～歩いて行ける市民センターを拠点としたまちづくり～

<p>概要</p>	<p>・本市には、地域の拠点施設である市民センターが6館あり、そのいずれにも図書館分室が併設されている。この特性を生かし、市内6か所にある市民センターを拠点として、活力にあふれるまちづくりをさらに推進するため、図書館分室のスマート化をはじめとした拠点機能の充実を図る。</p>			
<p>課題</p>	<p>・更新時期の集中する公共施設の更新、再構成 ⇒ ICT活用による図書館分室の機能転換 【スマート技術を活用した住民利便性の向上】 (中央図書館へ行かなくても、徒歩で通える図書館分室で充実した図書サービスを受けられるようにする) ・急速に進む高齢化などにより、高齢者の単身世帯や高齢者夫婦のみ世帯が増加。孤立や地域活力の低下 ⇒ 市民センターを活用した取組、地域コミュニティの充実 【地域の拠点機能の充実】 ・災害の激甚化 ⇒ それらの取組を推進するために必要な施設改修 【地域の拠点機能の充実・スマート技術を活用した住民利便性の向上・地域レジリエンスと地域脱炭素化の推進】</p>			
	<p>コンセプト(目的)</p>	<p>目標時期</p>	<p>検討したい取組(施策)</p>	<p>民間企業等の協力を得たい分野・内容</p>
<p>コンパクト</p>	<p>地域の拠点機能の充実</p>	<p>長期 (R6～)</p>	<p>・地域福祉、健康づくりなどの推進 市民に身近な地域の拠点施設である市民センターを活用し、地域活動、地域福祉、健康づくりなどの様々な分野の事業展開を図る。「包括的支援体制」や「健康づくりを支える仕組み」の整備など</p> <p>・地域コミュニティの充実 自治会や地域支え合い協議会などの様々な団体のつながりを促進し、地域の課題の解決に向けた取組を支援することにより、地域活力の維持向上を図る。</p> <p>・鶴ヶ島駅周辺地区まちづくりの推進 ・市内企業との官民連携事業による公園の再整備 ・公共施設再編による交流拠点整備 ・駅と拠点間の道路・歩行者空間の整備、憩いスペースの創出</p>	<p>・公共施設再編 ・包括的支援体制の整備 ・健康づくり</p>
<p>スマート</p>	<p>スマート技術を活用した住民利便性の向上</p>	<p>中期 (R7～)</p>	<p>・スマート技術を活用した図書館運営の見直し(スマート図書館への転換) ICT活用による図書館分室(各市民センターに併設・6室)のスマート化を図る。</p> <p>・バスロケーションシステムのデータ活用 バスロケーションシステム(導入済み)のデータをつるバス・つるワゴンのルート・ダイヤ見直しなどに活用する。</p>	<p>・図書館運営の見直し ・公共交通</p>
<p>レジリエント</p>	<p>地域レジリエンスと地域脱炭素化の推進</p>	<p>長期 (R5～)</p>	<p>・避難所などへの太陽光発電及び蓄電池の整備 災害時の強靱性向上及び地域の脱炭素化を同時に推し進めるため、避難所となる学校や市民センターなどへの太陽光発電設備及び蓄電池の整備を進める。 また、災害時に電気自動車(EV)を蓄電池として利用できるよう、V2Hシステムの活用を図る。</p>	<p>・脱炭素の取組 ・太陽光発電及び蓄電池(EVを含む)の整備・活用</p>

(参考) 図書館及び市民センターについて

【図書館の現状】

	蔵書	人員	場所
中央図書館	○ (多い)	○ (多い)	× (誘導区域の外)
分室[6館]	× (少ない)	× (少ない)	○ (誘導区域の近く)

【市民センターの特徴】

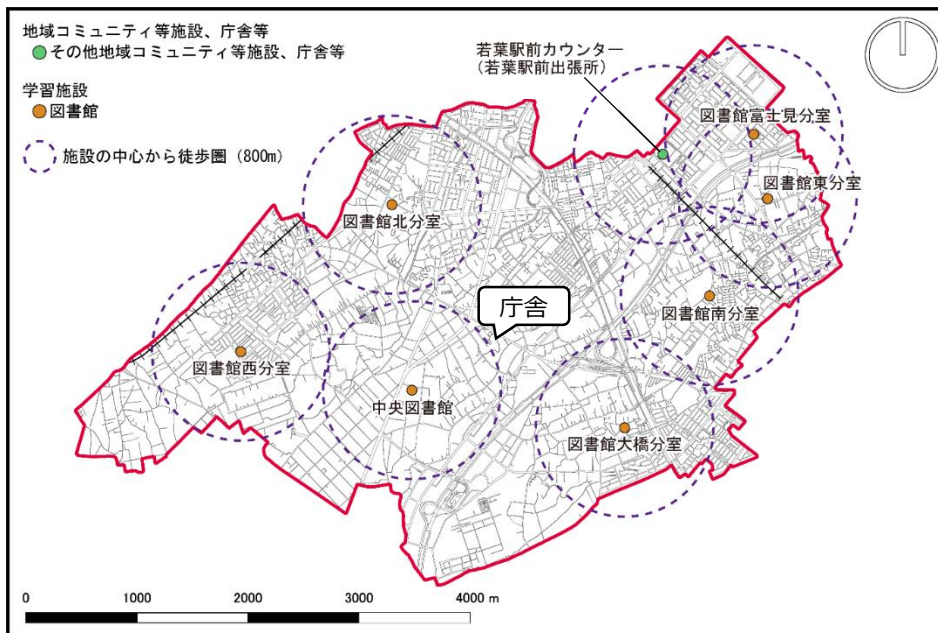
- ・少子高齢化による様々な地域課題を、地域で解決できる**体制・仕組み**を構築するため、市内6か所に市民センターを設置（H27年度に**公民館を改編して設置**）
- ・居住誘導区域内（又は同区域の近く）にあり、多くの市民が**徒歩でアクセス可能**
- ・児童館や図書館分室を併設している。特に、図書館分室は全ての市民センターに併設しており、**配架・閲覧のために広いスペース**を有する

ICT活用により分室機能を充実

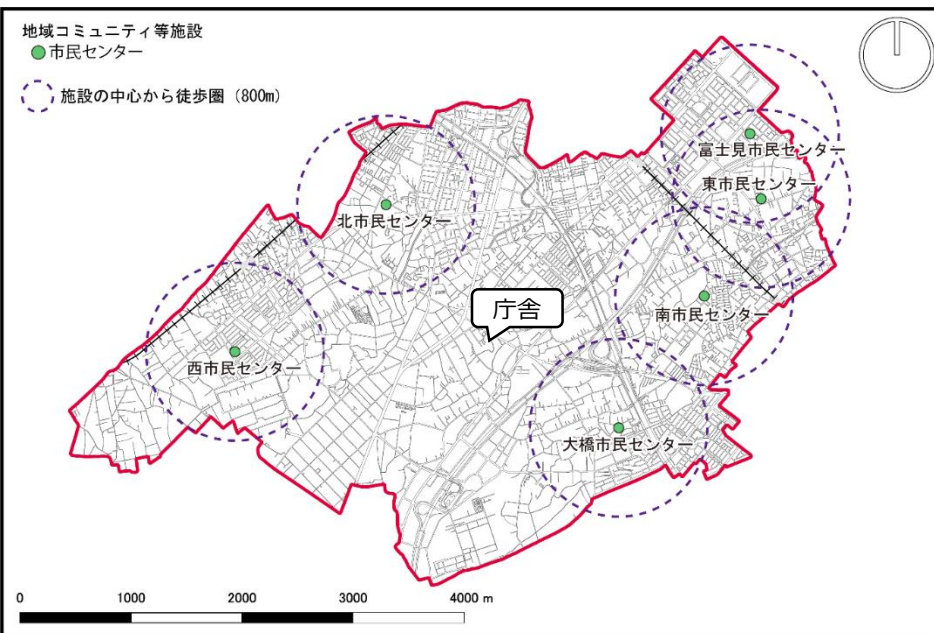
↓
中央図書館へ行かなくても、それぞれの分室で同等のサービスを提供

↓
歩いて行ける身近な市民センターで、充実した図書館サービスが受けられるまちへ

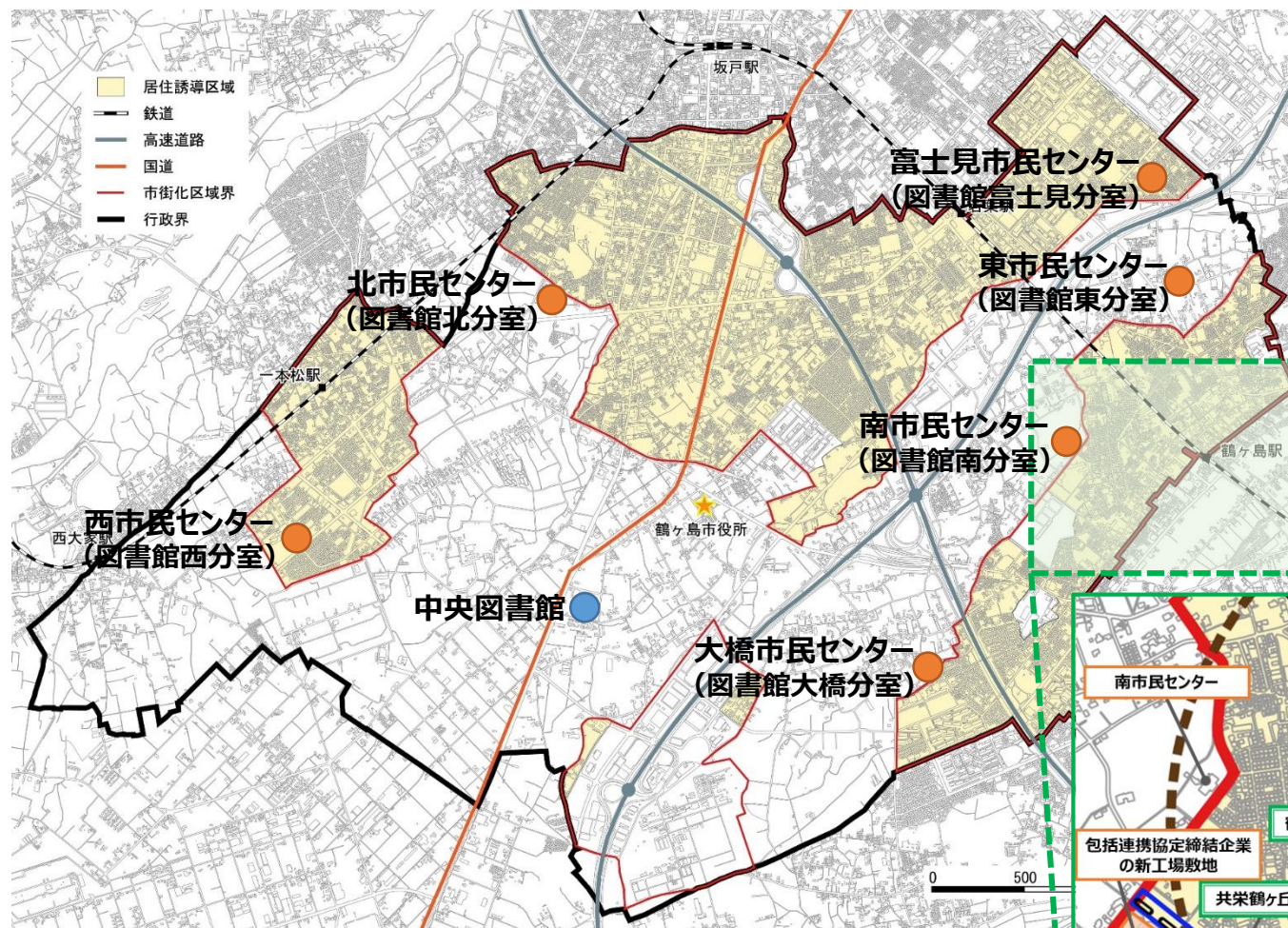
《図書館の配置（中央図書館、若葉駅前カウンター、分室）》



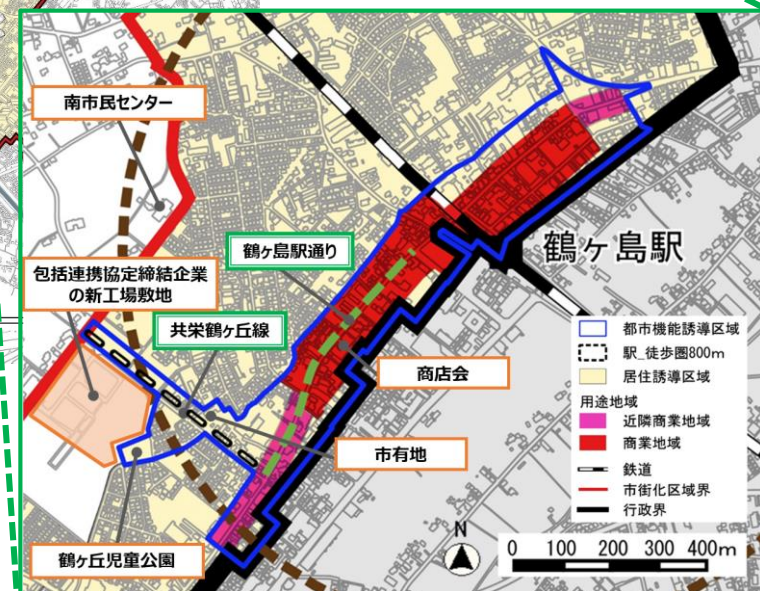
《市民センターの配置》



(参考) 鶴ヶ島市立地適正化計画で設定している居住誘導区域



「鶴ヶ島駅周辺地区」の対象エリア
(都市機能誘導区域及びその周辺エリア)



《参考：市内6センターの所在地》
 東市民センター（五味ヶ谷202番地）
 南市民センター（鶴ヶ丘375番地1）
 北市民センター（脚折2171番地1）
 富士見市民センター（富士見五丁目11番1号）
 大橋市民センター（太田ヶ谷883番地）
 西市民センター（新町四丁目17番地8）

ふじみ野市版スーパーシティ構想

概要 ふじみ野市東西にある文化施設を中心とした人と人がつながる場の提供とデジタル技術を活用した行政サービスの質の向上と効率化を行う。また、環境に配慮し、災害に強いまちを目指す。

課題

- ・高齢化の進展に伴う地域のコミュニティカ、商店街の活力の低下。
- ・一部施設では太陽光パネルを活用しているが、災害発生時に拠点となる施設へのエネルギー供給が難しい。
- ・デジタル技術の活用に関するノウハウの不足とDX人材の不足、市民サービスへの対応。

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	駅前や公共施設の整備に付随した地域コミュニティの醸成	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設整備に伴う人と人とのつながりづくりの場の提供 ・上福岡駅東口駅前整備に伴う商店街の空き店舗を活用したにぎわいの創出の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ醸成 ・商店街活性化 ・創業支援 ・空き店舗活用
スマート	デジタルを活用した利便性の向上とデータ利活用による市民サービスの提供	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の利便性向上を目的とした施設利用料金のキャッシュレス決済等オンライン手続きに関するデジタル技術の導入検討 ・市民サービス拡充に向け、デジタル市役所の開設を検討し、窓口業務等の業務量調査を行い、市民にとって利用しやすい申請窓口等の検討 ・市内循環ワゴン、マルチモビリティ等の利用により蓄積された人流に関するデータを活用し、公共交通の最適化を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・DX ・データ利活用 ・AI
レジリエント	災害に対するレジリエント性を強化した安全・安心なまちづくり	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設等の市内公共施設整備に合わせ、太陽光パネルの設置の検討 ・太陽光等で発電し、貯蓄した電力(EV車等)を地震等の非常時に融通することや調整池等整備による水害時における地域のレジリエント性向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄電池 ・太陽光発電 ・再生可能エネルギー ・EVカーシェア

ふじみ野市版スーパーシティプロジェクト取組イメージ

ステラ・ウェスト
※完成予想図



コンパクト

商店街の空き店舗を活用したにぎわいの創出

文化施設・事業によるにぎわいの創出

ステラ・イースト
(東文化施設)



ステラ・イースト

スマート

人流データの
積み上げ・データ
利活用
↓
公共交通の最適化

レジリエント

公共施設への太陽光パネルの
設置・EV車等を活用した災害
時の電力供給

ステラ・ウェスト
(西文化施設)

スマート

デジタル技術の活用・デジタル市役所の開設⇒市民サービスの拡充・利便性向上

概要
ふじみ野市東西にある文化施設の整備に伴う、人と人がつながる場の提供とデジタルを活用した行政サービスの質の向上と効率化を行う。また、環境に配慮し、災害に強いまちを目指す。

新白岡スーパー・シティプロジェクト — 新白岡2.0 —

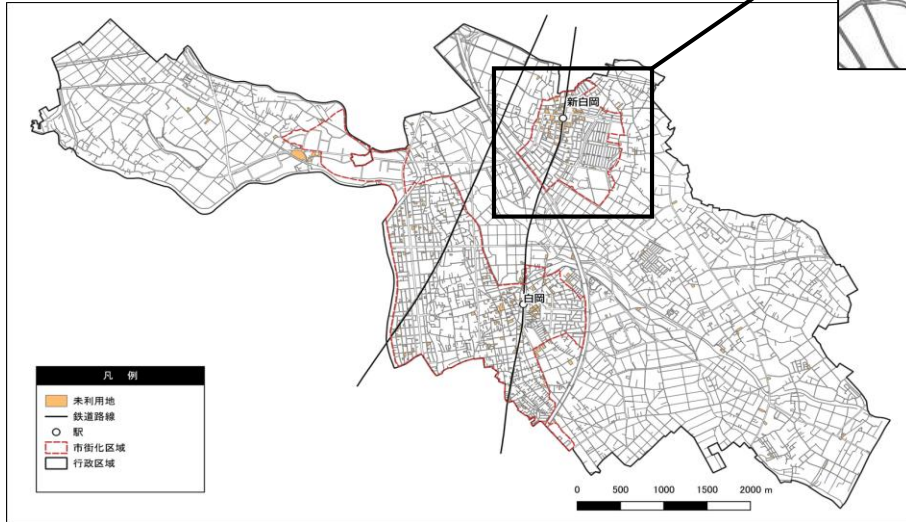
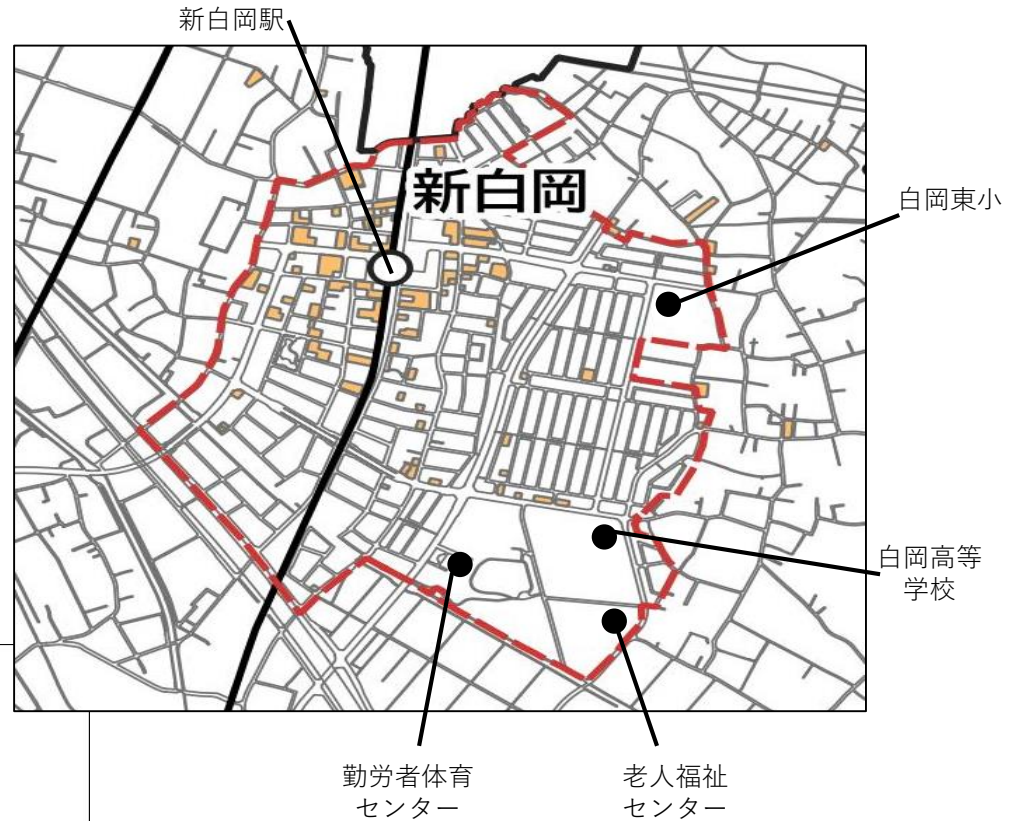
概要	<p>新白岡駅周辺地域を将来にわたって持続的に発展させるため、先進的な制度の導入や先端技術の実装などにより、「まちの価値」を向上させる新たなまちづくりを行う。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢化が進む中で、住民主体の地域に根差したまちづくりが求められている。 ・デジタル技術やAI技術の実装により、豊かな暮らしが実感できるまちづくりが求められている。 ・様々な危機に対応できる強いまちづくりが求められている。

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	<p>エリアマネジメントでまちづくり</p>	<p>長期 (10年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な都市機能を誘導し、利便性・快適性を備えた拠点の形成 ・住民主体型エリアマネジメントの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりへの参画
スマート	<p>地域DXでゆとり生活</p>	<p>長期 (10年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒト・モノ・情報をICTでつなげるスマートタウンの形成 ・オンデマンド交通「のりあい交通」の充実・強化 ・スマートメーターシステムの構築などによる地域DXの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的なデジタル技術の実装 ・先進的なAI技術の実装
レジリエント	<p>地域の“力”で安心安全</p>	<p>長期 (10年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自治組織活動の支援による防災力強化 ・公共施設への太陽光発電設備や蓄電池の設置、ガスコージェネレーションの導入等によるエネルギーセキュリティの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電 ・蓄電池 ・ガスコージェネレーションシステムの導入支援

新白岡スーパー・シティプロジェクト - 新白岡2.0 -

新白岡駅周辺地域を将来にわたって持続的に発展させるため、住民主体型エリアマネジメントの導入やデジタル技術の実装などにより、「まちの価値」を向上させる新たなまちづくりを行う。

新白岡駅周辺地域の拡大図



三芳町

町全域

三芳町版スーパー・シティ構想

概要	歴史、文化、自然、産業等を活かした持続可能なまちづくりを実現するため、未来創造拠点の整備、各エリアとの交通網の形成、災害時ネットワークの構築、カーボンニュートラル関連技術の活用などによる“三芳町独自のコンパクトでスマートなまちづくり”を推進する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・高齢化の進展 ・地域コミュニティの衰退 ・拠点を結ぶ移動手段の整備

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	地域資源と拠点をつなぐ魅力あるコンパクトシティ	中・長期 (5～10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、公共施設を複合化し、地域住民が集う未来創造拠点の整備 ・地域資源(公園・緑地・農業遺産等)と道路環境(街路緑化含む)の整備による地域間交流による拠点での賑わい創出 ・三芳スマートIC周辺における農と人との交流による賑わいの創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点整備、維持管理 ・地域資源の活用
スマート	次世代技術の活用や官民連携によるスマートなまちづくり	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点・地域資源をつなぐ、公共交通網の充実、シェアサイクル等の新たな移動手段の創出 ・DX促進による手続きのオンライン化や移動しなくても実現できるサービスの促進により、ムーブレスで暮らしやすい生活の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアサイクル ・新たな移動手段 ・DX
レジリエント	安心・安全で持続可能なまちづくり	中・長期 (5～10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーによる防災機能を有した災害時受援拠点の整備 ・災害時受援拠点と拠点間を結ぶ、官民連携による災害ネットワークの構築 ・未来創造拠点を中心とする防災・防犯機能の充実 ・EVの避難所活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー ・EV活用 ・災害時運搬 ・防犯技術

OGANOおもてなしまちづくりプロジェクト ～文化と自然が香る町小鹿野～

概要	道の駅等の公共施設を中心として、観光機能、交流拠点機能を強化。 加えて、交通ネットワークの見直しを行うことで、町内外から人が集まり、交流することができる地域を構築。すべての人が「小鹿野らしさ」を感じられるまちを目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済の衰退 ・人口減少 ・関係人口の減少 ・公共交通機能の強化

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	観光拠点での人々の交流による賑わいづくり	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道の駅周辺エリアを中心とした観光・交流拠点の機能強化 ・ 役場新庁舎を拠点とした観光・交流拠点の機能強化 ・ 各地域の町有施設を活用した交流拠点の機能強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の活用 ・観光
スマート	スマート技術を活用した拠点間・内移動の確保	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内の回遊性を高めるスマートモビリティ、電動モビリティなどの活用 ・ 路線バスやAIデマンドタクシーなどを合わせた地域の公共交通ネットワークの形成 ・ 町営バスへ電子決済システムの導入・検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・電動シェアサイクル ・交通ネットワーク技術
レジリエント	観光・交流施設のエネルギー自給	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域特性に応じた再生可能エネルギーの活用、災害時でも途絶えないサービス提供の実現 ・ 公共施設の機能強化によるエネルギーの効率化、温室効果ガス排出量の削減を図る ・ 電動モビリティ導入による再生可能エネルギーの活用及び蓄電機能の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスボイラー ・太陽光発電 ・蓄電池

- 地域拠点を中心とした観光機能、交流拠点機能向上とレジリエントの両立
- 地域特性に応じた再生可能エネルギー活用、災害時でも途絶えないサービス提供の実現

三田川・倉尾地域：

スポーツ・名水ゾーン

- おのうちつらら
- 尾ノ内氷柱、みどりの村
 - 小鹿野町総合運動公園
 - 二子山、合角ダム
 - 倉尾ふるさと館、毘沙門水、ふれあい水



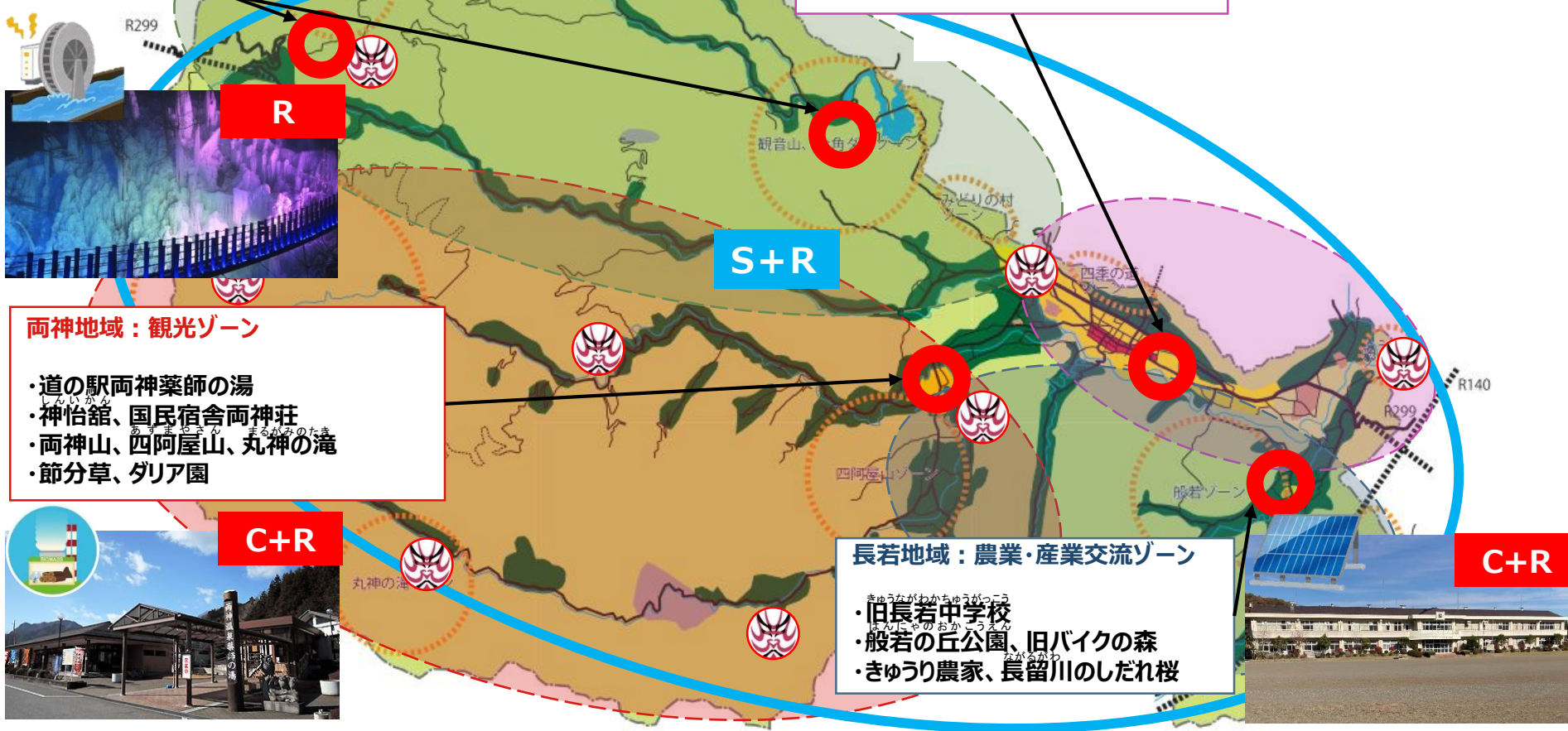
C+R

小鹿野地域：中心市街地ゾーン

- 新小鹿野町役場
- 中心市街地、観光交流館、夢鹿蔵 ゆめかぐら
- 交通の拠点（西関東連絡道路からの玄関口、バスターミナル）
- ようばけ、おがの化石館



C+R



両神地域：観光ゾーン

- 道の駅両神薬師の湯
- 神怡館、国民宿舎両神荘
- 両神山、四阿屋山、丸神の滝
- 節分草、ダリア園



C+R

長若地域：農業・産業交流ゾーン

- 旧長若中学校 まげながわちゅうがっこう
- 般若の丘公園、旧バイクの森
- きゅうり農家、長留川のしだれ桜



C+R

神川町版スーパー・シティプロジェクト ～コンパクトな町でフレキシブルに暮らす～

概要	町内それぞれの立地に適した地域拠点の形成と、拠点間を人・物・情報がフレキシブルに移動できる環境を実現することで、町民の安心・安全な暮らしの確保と町内外の交流人口の増加による賑わいの創出を目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展(免許返納による移動手段喪失、一人暮らし高齢者の増加など) ・過疎地域をはじめとした公共交通の衰退(脆弱性) ・商業・医療施設の不足や観光資源の衰退(老朽化) ・大規模災害への備え

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	地域拠点の形成と町内外の交流促進	中長期 (5~10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア拠点の整備 ・新支所を拠点とした地域交流促進 ・企業連携による観光資源の再編・パーク化 	観光振興
スマート	デジタル技術を活用した日常生活等の総合支援	中長期 (5~10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート物流の導入(買い物支援) ・デジタル技術を活用した子育て相談や健康維持等の支援 ・自由に移動できる公共交通網の構築 	ドローン・運輸 AIオンデマンド交通 自動運転
レジリエント	デジタル技術等を活用した安心・安全の確保	中長期 (5~10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンによる災害状況把握や物資輸送の実現 ・デジタル技術を活用した高齢者見守り支援 ・電気自動車の促進等による災害時のエネルギー確保 	ドローン・運輸 蓄電池・太陽光発電 小水力発電

神川町版スーパーシティプロジェクト ～コンパクトな町でフレキシブルに暮らす～

市街地エリア

地域包括ケア拠点の整備



デジタル技術を活用した
「子育て相談」、「健康維持等の支援」
「高齢者の見守り」「獣害対策」など



ドローン等を活用したスマート物流
「日用品等の輸送」
「災害時の物資輸送」

拠点間を人・物・情報がフレキシブル
に移動できる環境を実現

中山間エリア

新支所の整備と地域交流促進機能の拡充



交流・体験エリア

企業連携による観光資源の再編・パーク化



自由に移動できる公共交通網の構築
「デマンドタクシー」の導入など

電気自動車の促進等による
災害時のエネルギー確保

町民の安心・安全な暮らしの確保と町内外の交流人口の増加



「ひと・もの・しごと・情報」が行き交うハーモニータウン上里
 ～良質な情報とサービスで暮らしの質を高める仕組みづくりと災害に強く賑わいのあるまちづくり～

概要	人口減少、超少子高齢社会に適応した、「ひと・もの・しごと・情報」が行き交う持続可能で魅力を感じられるまちを目指す。中心拠点である「神保原駅周辺地区」と、観光・交流拠点である「上里サービスエリア周辺地区」を重点区域に位置づける。2つの拠点の賑わいを軸に、魅力の集約・便利・安心が一体となった調和のとれた住みやすい住環境を形成する。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少抑制のため、若年層・子育て世代の人口誘導 ・市街地が拡散傾向にあるため、コンパクトな都市構造への転換 ・神保原駅周辺と上里サービスエリア周辺の2拠点の賑わいと魅力の向上 ・災害に対する安全性の確保 			
	コンセプト（目的）	目標時期	検討したい取組（施策）	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	賑わいのある拠点形成と交流・関係人口の増加による若年層・子育て世代等の移住、定住促進	短中期 (3～5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験制度の実施による移住、定住促進 ・チャレンジショップ等の取組を通じた上里発商品PRの仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいづくり ・空き家等の利活用 ・サテライトオフィス ・移住、定住促進
長期 (10年)		<ul style="list-style-type: none"> ・ウォークアブルなまちなかづくり ・拠点周辺整備の推進 ・サテライトオフィス等の推進による若年層等を対象としたUIターン促進 ・子育て世代等の移住、定住促進 		
スマート	地域課題の解決に向けたスマート技術の活用	短中期 (3～5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化による役場窓口の「3ない窓口化」 ・デジタルサイネージ等を活用した情報発信強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリ ・AI、IoT、5G ・見守りネットワーク
長期 (10年)		<ul style="list-style-type: none"> ・生活利便性を高めるアプリによるサービス向上 ・高齢者や子どもの見守り強化 		
レジリエント	災害に対する安全性の確保と脱炭素社会の推進	中長期 (5～10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・防災まちづくり関連整備（非常時の電源確保、ソーラー照明灯等） ・公共施設のZEB化推進 ・公用車のEV化推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー ・蓄電池 ・ZEB

「ひと、もの、しごと、情報」が行き交うハーモニータウン上里

～良質な情報とサービスで暮らしの質を高める仕組みづくりと災害に強く賑わいのあるまちづくり～

コンセプト

【コンパクト】

賑わいのある拠点形成と交流・関係人口の増加による若年層・子育て世代等の移住、定住促進

【スマート】

地域課題の解決に向けたスマート技術の活用

【レジリエント】

災害に対する安全性の確保と脱炭素社会の推進

●対象エリア：町全域

●重点区域：① 神保原駅周辺地区（中心拠点）

② 上里サービスエリア周辺地区（観光・交流拠点）

・デジタルサイネージ等を活用した情報発信強化

- ・チャレンジショップ等の取組を通じた上里発商品PRの仕組みづくり
- ・拠点周辺整備の推進
- ・サテライトオフィス等の推進による若年層等を対象としたUIJターンの促進

- ・公共施設のZEB化推進
- ・公用車のEV化推進



上里町役場EV充電スタンド

【町全域】

- ・農業体験制度の実施による移住、定住促進
- ・子育て世代等の移住、定住促進

【町全域】

- ・生活の利便性を高めるアプリによるサービス向上
- ・高齢者や子どもの見守り強化

上里サービスエリア周辺地区

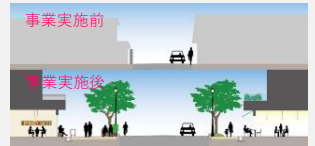
神保原駅周辺地区

- ・防災まちづくり関連整備（非常時の電源確保、ソーラー照明灯等）



ソーラー照明灯

- ・ウォークアブルなまちなかづくり



- ・デジタル化による役場窓口の「3ない窓口化」



オンライン申請、事前申請・来庁予約



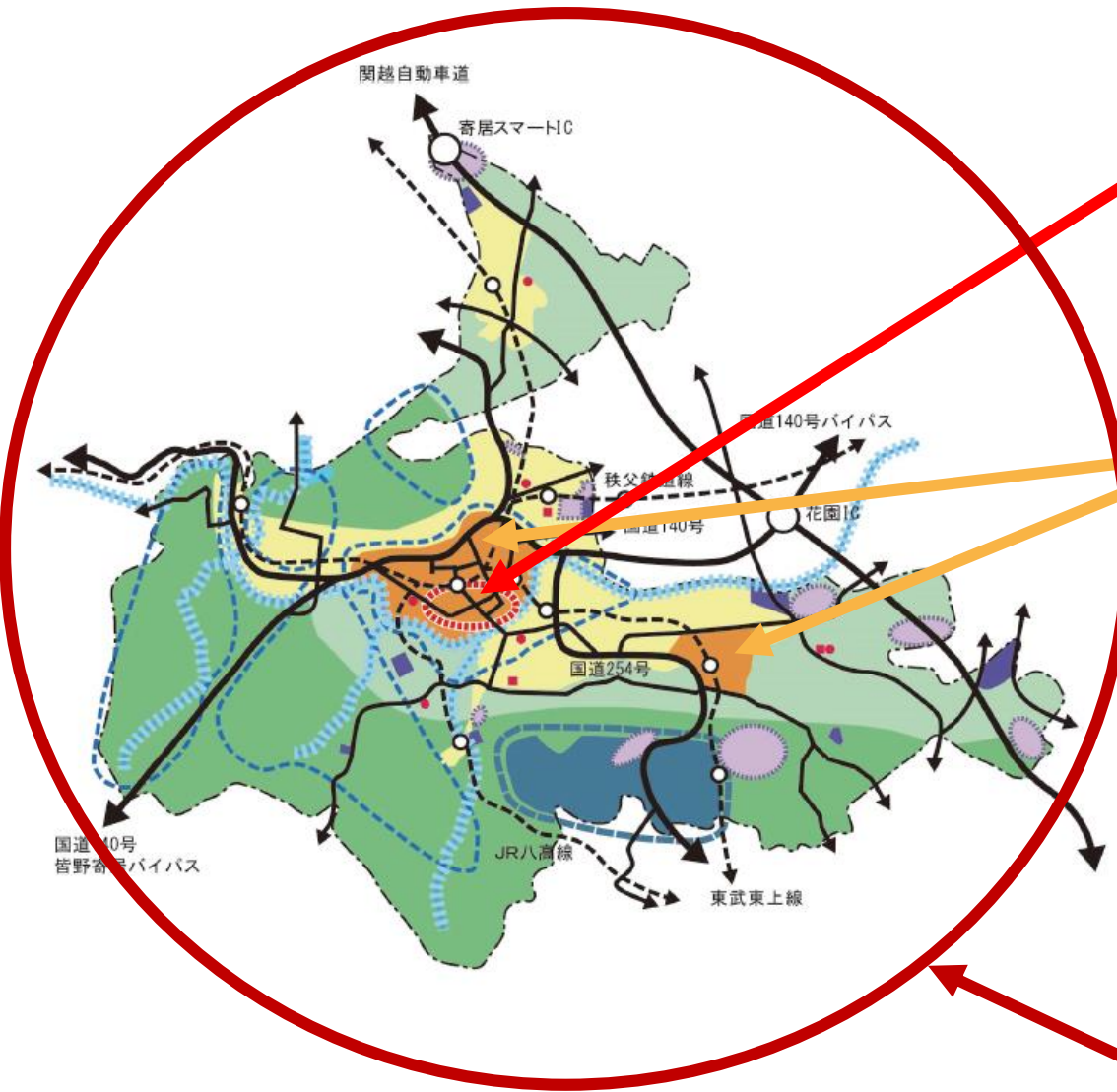
段階的に整備

よりのスーパータウンプロジェクト

概要	日々変化する社会情勢のなかで、未来に向けて町民一人ひとりが自分らしくいきいきと活躍する無限の可能性を引き出し、いつでもどこでも町民の笑顔に出会えるような「可能性∞ 笑顔満タン よりのまち」を目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化、人口減少への対応 ・コンパクトなまちづくり ・中心市街地を含めた地域の魅力向上、にぎわい創出 ・多様化する町民のニーズへの対応 ・災害時の電力供給や再生可能エネルギーの活用 ・カーボンニュートラルの実現

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	地域の魅力を感じられるとともに利便性が高い市街地形成	中長期 (5~10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトなまちづくり、交通利便性の向上 ・駅前拠点の施設(Yotteco)と広場(YORIBA)の活用や歩きたくなるまちづくり等による中心市街地の活性化、にぎわい創出、魅力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティの形成 ・空き家・空き店舗活用 ・スマートモビリティ ・中心市街地活性化 ・未利用民間施設の活用 ・アセットマネジメントの推進
スマート	ICTの推進による町の利便性向上	中長期 (5~10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・電子申請の拡大など行政手続のデジタル活用による利便性向上 ・地域通貨(Yorica)の普及と活用による町内経済の活性化 ・教育におけるICTの利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルデバイド解消 ・教育、子育て、健康、行政手続などのデジタル活用による町民利便性向上
レジリエント	地域防災力の強化、環境配慮型社会の形成	中長期 (5~10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー等の活用による地域防災力の強化 ・脱炭素ライフスタイルへの転換促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー ・蓄電池 ・エコハウス、エコカー普及

よりのスーパータウンプロジェクト エリアと主な取り組み



**【中心市街地エリア
(寄居駅南口周辺)】**

- ・寄居駅南口の駅前拠点施設や広場を活用した賑わい創出
- ・中心市街地の魅力向上
- ・「歩きたくなる・歩いてお得なまち」の形成

**【コンパクトな市街地を形成する
エリア(寄居駅、男衾駅周辺)】**

- ・寄居駅、男衾駅周辺への居住誘導
- ・男衾駅周辺の新市街地整備

【町全体】

- ・地域通貨(Yorica)の普及と活用による町内経済の活性化
- ・SNSの活用などよりの魅力発信の強化
- ・電子申請の拡大など行政手続のデジタル活用による町民利便性向上
- ・教育、子育て、健康、行政手続などのデジタル活用による町民利便性向上
- ・官民連携によるエネルギーの地産地消
- ・脱炭素ライフスタイルへの転換促進

宮代版スーパー・シティ構想

概要	<p>東武動物公園駅から東武動物公園、新しい村までのエリアを中心としたコンパクトな地域拠点整備と小学校の多機能化・複合化による地域の活性化を図ります。また、AIやIoTを活用した安全で利便性の高い暮らしを確保するとともに、再生可能エネルギー設備を整備することにより、災害時にも安心できるまちづくりと脱炭素化を同時実現するまちづくりを目指します。</p>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮代らしさ」を価値として高める必要性 ・高齢化の進展等による地域コミュニティ力の低下 ・近年の大型災害頻度の増加に対する備え・避難所等への災害停電時の電力供給 			
	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	歩いて楽しい中心エリアの整備と小学校の再整備による地域活性化	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・東武動物公園駅東口と西口から東武動物公園、新しい村までを、ウォーカブルな道へ整備することで、エリアの価値を高めるとともに、新しい村を魅力的な空間に変えていきます。 ・和戸及び姫宮地域周辺の小学校を「地域の中心施設」として、多機能化・複合化します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携の体制づくり ・地域資源の活用
スマート	AIやIoTを活用した安全で利便性の高い暮らしの確保	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今の災害リスクの増大に伴い、ICTを活用した災害状況の可視化や情報発信の強化に取り組みます。 ・スマート農業を導入し営農の継続性を確保・推進します。 ・AIやIoTを活用し、地域公共交通や公共施設利用の利便性を高めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災情報デジタル化 ・スマート農業 ・大学連携
レジリエント	災害時でも途絶えない電源の確保と脱炭素社会に向けた取り組み	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等に再生可能エネルギー設備を整備し、地域のレジリエンス(災害時や停電時に対する強靱性の向上)と脱炭素化を同時実現するまちづくりを目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・EVシェア・EV充電器 ・蓄電池 ・太陽光発電

宮代版スーパー・シティ構想

災害時でも途絶えない電源の確保と脱炭素社会に向けた取り組み

- ・再生可能エネルギー設備の整備
(太陽光発電、電気自動車、EVシェア等)



AIやIoTを活用した安全で利便性の高い暮らしの確保

- ・ICTを活用した災害状況の可視化や情報発信の強化
- ・スマート農業の導入
- ・AIやIoTを活用し、地域公共交通や公共施設利用の利便性向上



歩いて楽しい中心エリアの整備

- ・東武動物公園駅東西口から東武動物公園、新しい村までをウォーカブルな道へ整備
- ・新しい村を魅力的な空間に整備



小学校の再整備による地域活性化

- ・小学校を「地域の中心施設」として、多機能化・複合化
(和戸地区、姫宮地区)

杉戸町版スーパーシティプロジェクト

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・分断されている人と人、人と資源をつなげるにより「顔の見える経済圏を創る」というビジョンの実現に向けて、まちなかを中心に、人のエネルギーとお金がめぐる仕組みを作ることで町全体の経済がめぐり、自立型で持続可能なまちづくりを目指す。 ・杉戸町中心部にある東武動物公園駅東口通り線周辺の「まちなか」エリアで、旧杉戸小学校跡地の公共施設再編や東口通り線の拡幅整備等に伴い、地域の拠点となる機能を設置して都市機能の集約化を目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による公共交通利用者の減少、交通弱者の増加による公共交通維持への影響、都市施設の稼働率低下 ・空き家、空き地、空き店舗の増加による施設維持の困難、施設撤退による生活サービス機能の低下 ・都市のスポンジ化や低密度化、都市施設の老朽化、高齢化や担い手不足による農業や中心市街地商業の低迷、地価の下落 ・多様な地域資源、自然資源や歴史資源等を有しているが十分な活用が図られておらず、回遊性に乏しく、観光客の伸び悩み ・異常気象による洪水や地震など

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	東口通り線周辺を中心としたウォークアブルなまちづくり	長期 (10年)	<ul style="list-style-type: none"> ・東口通り線周辺を中心としたコンパクトな市街地を維持することで、子育て世代や高齢者等の住みやすい環境を形成し、町民内外の交流・定住を促進 ・空き家・空き地・空き店舗を有効活用し、まちの回遊性を高め、まちなかの賑わいを創出する。 ・東口通り線、大落古利根川、みなみがわ散策道、旧杉戸小学校跡地の公共施設の整備による町の魅力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店の活性化、地域資源、歴史資源の活用(空き家、空き店舗対策) ・官民連携の体制づくり、エリアマネジメント ・マーケット、キッチンカーなど営業施設 ・県道東口通り線、古利根川などの整備
スマート	デジタル技術を活用した町民の日常生活の利便性向上、安心・安全なまちづくり	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・東口通り線を中心としたエリアの3Dモデルを活用し、まちの将来像や人や交通の動きを可視化する ・IoTを活用したコミュニティの形成、モビリティサービス(MaaS)などによる町内拠点をつなぐ移動利便性の向上 ・防災情報のリアルタイムデータ可視化 	<ul style="list-style-type: none"> ・IoT(モビリティサービス、デマンド交通、シェアサイクル、コミュニティの形成) ・3Dモデル(合意形成、賑わい、防災)
レジリエント	災害時でも途絶えないインフラの確保	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・東口通り線の無電柱化により災害時でも途絶えない交通機能、電気通信機能の確保 ・平常時の省エネ・環境負荷軽減、災害時でも途切れない電気や水などのライフラインの確保、防災・減災に寄与する地域防災拠点の構築、水災害を軽減する対策 ・防災アプリ等を活用した災害のリアルタイム情報の取得 	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄電池、太陽光発電、電源取得設備、水利施設 ・エネルギーエリアマネジメント ・再生可能エネルギー ・災害情報のデジタル化、アプリ化 ・流域治水対策

杉戸町版スーパーシティプロジェクト

道路空間のグレードアップ



整備イメージ

出典：愛媛県松山市 花園町通り

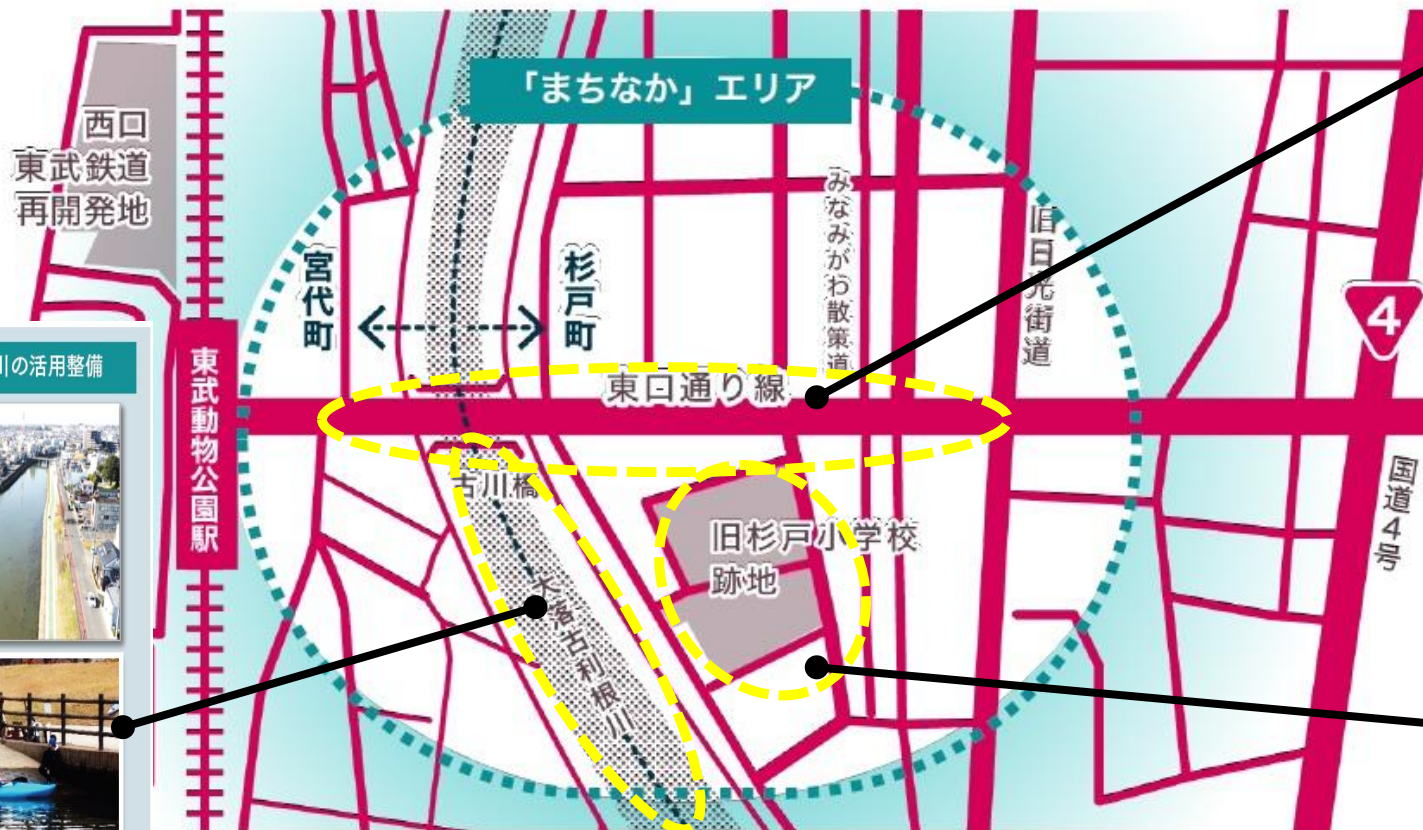
電線類の埋設による無電柱化が行われ、安心・安全に通行ができる開けた空間に生まれ変わります。併せて、景観（歴史・文化）や機能を考慮したデザインに道路施設を統一し、集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる空間整備が行われる予定です。

旧杉戸小学校跡地の再編



整備イメージ

「広場を中心とした、多世代が憩い、活用できる公共空間」とすることを活用方針として、官民連携手法を用いて再編が行われます。認可保育所やシェアキッチン等の民間誘致施設、広場等が整備される予定です。



大落古利根川の活用整備



整備イメージ

出典：草加市綾瀬川 草加パドラーズ

埼玉県により重点整備区間と認定され、ハードの整備が行われます。川を活用しているプレイヤーからの意見等を取り入れて、川へ降りられるスロープや給水設備、乗り出しデッキ等が整備される予定です。

大落古利根川の活用整備